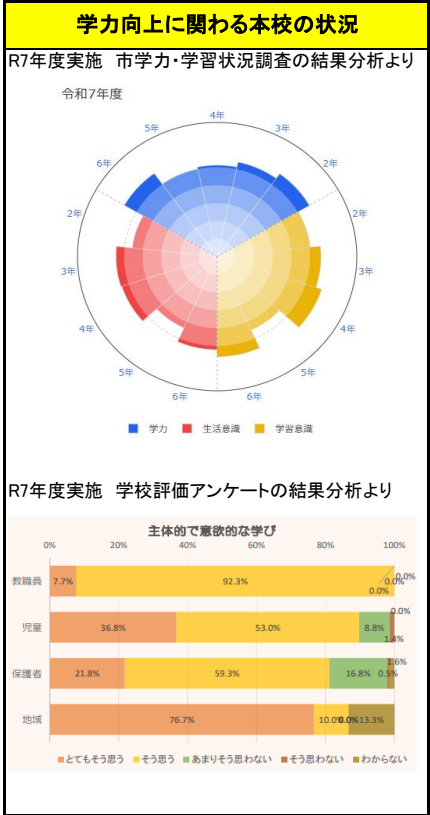


学校教育目標	
「さわやか笑顔 中田っ子」～思い合い ひびきあい 共に生きる力を育てます～ (知)自ら課題を見つけ、考え、協働して解決しようとする子を育てます (徳)自分のよさを発揮し、他者を思いやり、夢の実現に向かって挑戦し続ける子を育てます (体)基本的な生活習慣を身に付け、自他の命を大切にすることを育てます (公)進んで人とかわり、つながりをもち、地域社会に貢献する子を育てます (開)自分を見つめ、多様性を尊重し、共に生きる子を育てます	
教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	
具体化した資質・能力	
「自分づくりに関する力」 「コミュニケーション力」	主体性・積極性 他者を理解する態度・自己を理解する姿勢 思いや考えを表現する力 協働的に行動する姿勢
中期取組目標	
＜めざす子どもの姿＞ ○「ひと・もの・こと」に夢中でかわり、対話的に学び、自分の見方・考え方を深める子(学力) ○進んであいさつをし、自分も相手も大切にできる子(豊かな心) ○食生活の大切さを理解し、運動に親しみながら心身の健康をめざす子(健やかな体) ○情報や端末を扱うときのルールがわかり、それを守って活用することができる子(情報活用) ○中田のまちを愛し、地域のために自分のよさを発揮できる子(地域連携)	

学力向上アクションプラン

重点取組分野		具体的取組
学力向上		重点研究主題を「思いや願いの実現に向けて、『ひと・もの・こと』に夢中でかわり、対話的に学ぶことを通して、自分の見方・考え方を深める子の育成」とし、生活科、総合的な学習の時間を中心に、主体性の育成や対話を通して学びを深める力の育成を目指す。また、子どもが自らの学びの過程を振り返り、変容や成長を自覚できるようにするとともに、その成果を保護者や地域にも伝えていくことで、学びの価値を共有できるようにする。
担当	学力向上部会	



今年度の目標	
思いや願いの実現に向けて、「ひと・もの・こと」に夢中でかわり、対話的に学ぶことを通して、自分の見方・考え方を深める子の育成	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	【授業調査を通じた実証的研究の推進】 ・学力向上に関わる本校の状況の分析・把握 ・年間を通じた授業調査を6回実施 ・全教職員が授業提案を行い、めざす子どもの姿や授業について共有し、多様な視点から研究を深める。 ・事前・事後の研究会を充実させ、授業の成果と課題を明確にする。 これらの取組を通し、以下の視点で授業改善に努める。 ①教材研究の充実 ・年間を見通した単元構想を行い、探究的な学びの過程（課題設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）を繰り返し経験できるようにする。 ・地域や身近な「ひと・もの・こと」の関わりを重視した体験活動を充実させ、子どもの思いや願いをもとにした学習展開を工夫する。 ・話し合い活動や交流の場を設定し、他者との対話を通して、多様な見方・考え方に触れ、自分の感を広げたり深めたりできるようにする。 ②子どもの見取りと変容の自覚化 ・振り返りの時間を意図的に設定し、自己内対話を通して自分の考えの変容や気持ちを自覚できるようにする。 ・ポートフォリオや学習カード、ICT等を活用し、学習の過程を蓄積・可視化し、自分の変容や成長を自覚できるようにする。 【保護者・地域への発信】 ・保護者や地域の人材を学習に取り入れれたり、学びの成果を還元したりすることで、双方向の関わりを生み出す。 ・発表会や掲示、学校だよりなどを活用し、学習の成果だけでなく過程や子どもの成長を発信する。 ・子ども自身が自分の学びや成長を伝える機会を設け、学びの価値を実感できるようにする。
下半期	【授業調査を通じた実証的研究の推進】 ・学力向上に関わる本校の状況の分析・把握 ・年間を通じた授業調査を6回実施 ・全教職員が授業提案を行い、めざす子どもの姿や授業について共有し、多様な視点から研究を深める。 ・事前・事後の研究会を充実させ、授業の成果と課題を明確にする。 これらの取組を通し、以下の視点で授業改善に努める。 ①教材研究の充実 ・年間を見通した単元構想を行い、探究的な学びの過程（課題設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）を繰り返し経験できるようにする。 ・地域や身近な「ひと・もの・こと」の関わりを重視した体験活動を充実させ、子どもの思いや願いをもとにした学習展開を工夫する。 ・話し合い活動や交流の場を設定し、他者との対話を通して、多様な見方・考え方に触れ、自分の感を広げたり深めたりできるようにする。 ②子どもの見取りと変容の自覚化 ・振り返りの時間を意図的に設定し、自己内対話を通して自分の考えの変容や気持ちを自覚できるようにする。 ・ポートフォリオや学習カード、ICT等を活用し、学習の過程を蓄積・可視化し、自分の変容や成長を自覚できるようにする。 【保護者・地域への発信】 ・保護者や地域の人材を学習に取り入れれたり、学びの成果を還元したりすることで、双方向の関わりを生み出す。 ・発表会や掲示、学校だよりなどを活用し、学習の成果だけでなく過程や子どもの成長を発信する。 ・子ども自身が自分の学びや成長を伝える機会を設け、学びの価値を実感できるようにする。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野		具体的取組
豊かな心		①教育活動全体を通じて道徳教育と人権月間を核とした学年ごと学級ごとの人権教育の推進。互いを思いやる気持ちを育成する活動の1つとして、あいさつの励行をしたり、ペア活動の充実を図っていったりする。②「自分づくりパスポート」を活用し、自分で立てた目標を毎月振り返ることで、子ども自身の変容や成長を自己評価できるようにする。
担当	豊かな心の育成部会	

豊かな心に関わる本校の状況		今年度の目標
(1)豊かな心に関わる児童の実態 ○YPアセスメントの結果から、自己評価が極端に低い児童や、対人過敏を感じている児童の姿が見られた。また、心配傾向が高い児童も見られる。 ○あいさつに課題が見られる。教職員のあいさつに反応しない児童も時々見られる。自分からできることが目標ではあるが、まずは返事をすることから取り組んでいきたい。 (2)これまでの学校の取り組み状況 ○月1回、定期的に「いじめ防止対策委員会」を開催し、困り感のある児童についての情報共有や、いじめを未然防止するための支援について話し合い、全職員間での共通理解を図っている。 ○打ち合わせや、職員会議において、児童の共通理解の時間を設定している。職員間で同じように指導ができるようにしている。 ○YPアセスメントを年2回活用し、学級全体の状況や、児童一人ひとりの実態を把握し、個々に寄り添った指導を行っている。		いじめを許さず、自分も他の人も大切にできる心を育む。
目標を実現するための具体的行動プラン		
上半期	①道徳科の充実 ②職員研修実施(Y-Pアセスメント) ③Y-Pアセスメント活用の充実(実施・学級風土チェック・考察・プログラム実施・支援実践) ④児童共通理解の時間設定(打ち合わせ・職員会議) ⑤よこはま子ども会議 学校の取組計画・実施 ⑥異学年交流の活動の実践 ⑦自分づくりパスポート作成、ふりかえり ⑧いじめ防止対策委員会実施	
下半期	①道徳科の充実 ②Y-Pアセスメント活用の充実(実施・学級風土チェック・考察・プログラム実施・支援実践) ③児童共通理解の時間設定(打ち合わせ・職員会議) ④よこはま子ども会議 学校の取組計画・実施 ⑤異学年交流の活動の実践 ⑥自分づくりパスポート作成、ふりかえり ⑦いじめ防止対策委員会実施 ⑧ユニセフ募金のよびかけ ⑨いじめ基本方針の改定	

健やかな体の育成プラン

重点取組分野		具体的取組
健康教育		①学校生活全般での活動を通じて、子ども一人ひとりが主体的に健康な生活や、食事面も含めた規則正しい生活を送ろうとする姿勢を培う。家庭と連携し、運動、食育教育に力を入れる。②各委員会など子ども主体で計画された集会や給食週間など、楽しく体を動かす機会や食について考える場を設定し、日常的に取り組む態度を養う。
担当	健やかな体の育成部会	

健やかな体に関わる本校の状況		今年度の目標
○健やかな体に関わる児童の実態と取り組み ・毎年の体カテストの結果より、各学年とも市平均より少し低い傾向が見られたためもあり、この2年間は特に運動に関する活動に取り組んできた。 ・運営委員会からのクラスレクを推奨する活動や学校保健委員会での話し合いを通じて、クラスレクや日常の活動を通してみんなの体力が向上していく様子を知り、今後も運動を継続していこうという考えが定着しつつあるように感じる。 ・食育に関する指導を継続して行いつつ、今年度は高学年にもバランスイナワークを行ってみる。給食委員会の残量調査や給食週間の取り組みもより効果的に行っていけるように支援したい。		食生活の大切さを理解し、運動に親しみながら心身の健康をめざす子の育成
目標を実現するための具体的行動プラン		
上半期	①運動に向けての取り組みや、学校保健委員会や運営委員会から発信したクラスレクでの運動への取り組みを継続・推進していく。 ②地域学校協働本部のいきいきキッズの活動に子ども達を押し出していく。 ③体育の授業では、主体的で対話的な学びを通して、運動することの楽しさや安全に活動する大切さを考える。 ④「食育」については栄養教諭を中心に、各クラスで栄養指導、安全指導を行い、バランスイナワーク給食委員会の給食週間の活動も絡めて推進する。	
下半期		